

「有痛性骨軟部腫瘍に対する経皮的凍結治療の安全性に関する単施設・単群前向きオープン試験 (SCIRO-1502)」

【研究の背景】有痛性骨軟部腫瘍とは、がんの転移による痛みのある骨腫瘍や、そのほかの良性骨腫瘍など、筋肉や皮下組織等に発生し、痛みを伴う良性及び悪性軟部腫瘍です。有痛性骨軟部腫瘍に対する痛みのコントロールには通常薬物療法、放射線療法等がなされます。しかし通常の治療では痛みのコントロールが不十分な場合や、治療後に再び痛くなる場合があります。疼痛コントロール不良例では日常生活動作が低下し、寝たきりの生活を強いられ、生活の質の低下を来し、重大な社会問題と認識されており、痛みをコントロールできる他の有効な治療の確立が望まれています。

【研究の目的】凍結治療は専用の針を刺して病変を急速冷凍することで凝固壊死させる治療法です。凍結治療は現在我が国では小さな腎がんにおいてのみ保険診療が認められ安全に行うことができ、有効な治療効果があることがわかっています。この研究の目的は有痛性骨軟部腫瘍に対する凍結治療の安全性を解明することです。

【予定登録症例数】10例

【予定研究期間】平成 27 年 12 月 1 日から平成 30 年 3 月 31 日

【費用】凍結治療は小さな腎がんに対して行われる場合を除いては全額自費診療となります。治療に伴って生じた合併症の治療につきましては全額自費負担となります。通常 5 日間の入院で治療 4 週目の検査、診察を含めて約 70 万円の負担となりますが、負担額は個人個人の状況によって異なります。

【リンク】

<https://upload.umin.ac.jp/cgi-open-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&action=brows&type=summary&recptno=R000022057&language=J>